

はじめての

防衛白書



第2版

～まるわかり！日本の防衛～



目次



1 国の防衛はなぜ必要なの？	2
2 日本の周りの安全保障環境 ^{ほしやうかんきやう}	
(1) インド太平洋地域 ^{ちいき}	3
(2) 中国	4
(3) 北朝鮮 ^{きたちやうせん}	7
(4) ロシア	8
3 憲法 ^{けんぽう} と自衛隊の関係	9
4 日本の防衛の基本政策 ^{せいさく}	10
5 国を守るために必要なお金—防衛関係費—	11
6 日本を防衛するための自衛隊自身の取組	13
7 宇宙 ^{うちゆう} ・サイバー ^{でんじはりやういき} ・電磁波領域 ^{ちやうせん} での挑戦	17
8 先端技術 ^{せんたん} を活かした新たな挑戦 ^{ちやうせん} の時代へ	19
9 日本と地域 ^{ちいき} 、そして世界の平和を守るための日米同盟 ^{どうめい}	21
10 世界の国々 ^{くにくに} との安全保障協力 ^{ほしやう} の推進 ^{すいしん}	23
11 大規模災害 ^{だいきぼ} などへの対処 ^{たいしよ}	25
◇コラム 疑問 ^{ぎもん} に答えます◇	26
中高生記者インタビュー 働く自衛官の声	27
中高生記者インタビュー 防大生の声	33
◇裏表紙 自衛隊服装図鑑(イメージ)◇	

「はじめての防衛白書」について

「はじめての防衛白書」は、防衛省が毎年作っている防衛白書の内容を小学校高学年以上のみなさんにもわかりやすく説明することを目的として作成しました。

日本の周りの安全保障環境^{ほしやうかんきやう}や防衛省・自衛隊の取組についてできる限りわかりやすい言葉を使って説明していますが、難しい単語^{むずか}や表現が出てきて理解できない時は、辞書やインターネットを使って調べたり、周りの大人の人に聞いたりしてみてください。

また、「はじめての防衛白書」の内容ではもの足りない！ もっと詳しい内容^{くわ}が知りたい！ というみなさんはぜひ、防衛白書を読んでみてください。



※「はじめての防衛白書」の中で掲載^{けいさい}している図表やグラフは、わかりやすくするために一部省略^{かんりやく}・簡略化したり、細かい注意書きを掲載^{けいさい}していないものもあります。より詳しい内容^{くわ}を知りたい場合は、防衛白書を確認^{かくにん}してください。

1

国の防衛はなぜ必要なの？



みなさんは自衛隊が何をするための組織であるか知っていますか。

自衛隊の一番大事な、そして自衛隊にしか果たすことのできない任務はわたしたちの国、日本を防衛することです。

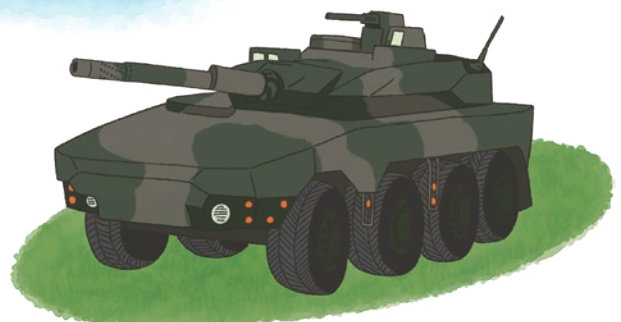
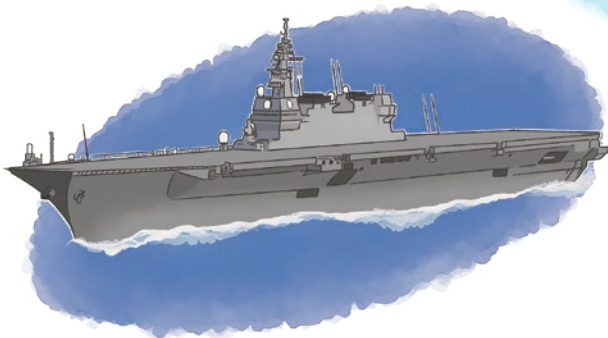
政治や経済、社会のあり方を、ほかの誰かに強制されるのではなく、わたしたち自身で決めていくためには、わたしたちの国の独立を守らなければなりません。また、平和と安全はわたしたちが安心して生活し、**繁栄**を続けていく上でなくてはならないものです。

しかし、こうした国の独立や平和そして安全は、残念ながら願うだけで実現できるものではありません。

例えば、みなさんが強盗にあたり、暴力をふるわれたりした時、警察を呼べばすぐに助けがきて、犯人を逮捕してくれると思います。しかし、国際社会では、ほかの国に何かを奪われたり、攻撃をされたりしたとしても、警察のように頼れる存在はないのです。

話し合いや協力といった手段により、平和や安全が脅かされるような状況になることを未然に防ぐことはもちろん重要です。しかし、**国を確実に守るためには、日本がきちんと自分たちの国を守る意思と能力があることを周りに示し、日本から何かを奪うのは難しいとほかの国に思わせることが必要**です。さらに、**それでもほかの国に攻め込まれるような場合には、確実に守り切るようにしておくことが必要**なのです。

自衛隊が多くのお金と労力をかけて、どのような状況にも対処できる力を常に維持しているのは、ほかの国と戦争をしたいからではありません。自衛隊が万全の態勢を整えているということを示すことで、ほかの国に「日本とは戦争をしたくない」と思わせ、戦争が起きないようにすることが自衛隊にとっての一番の勝利なのです。このように**ほかの国に対し、日本を攻めることを思いとどまらせる力を「抑止力」といいます。**

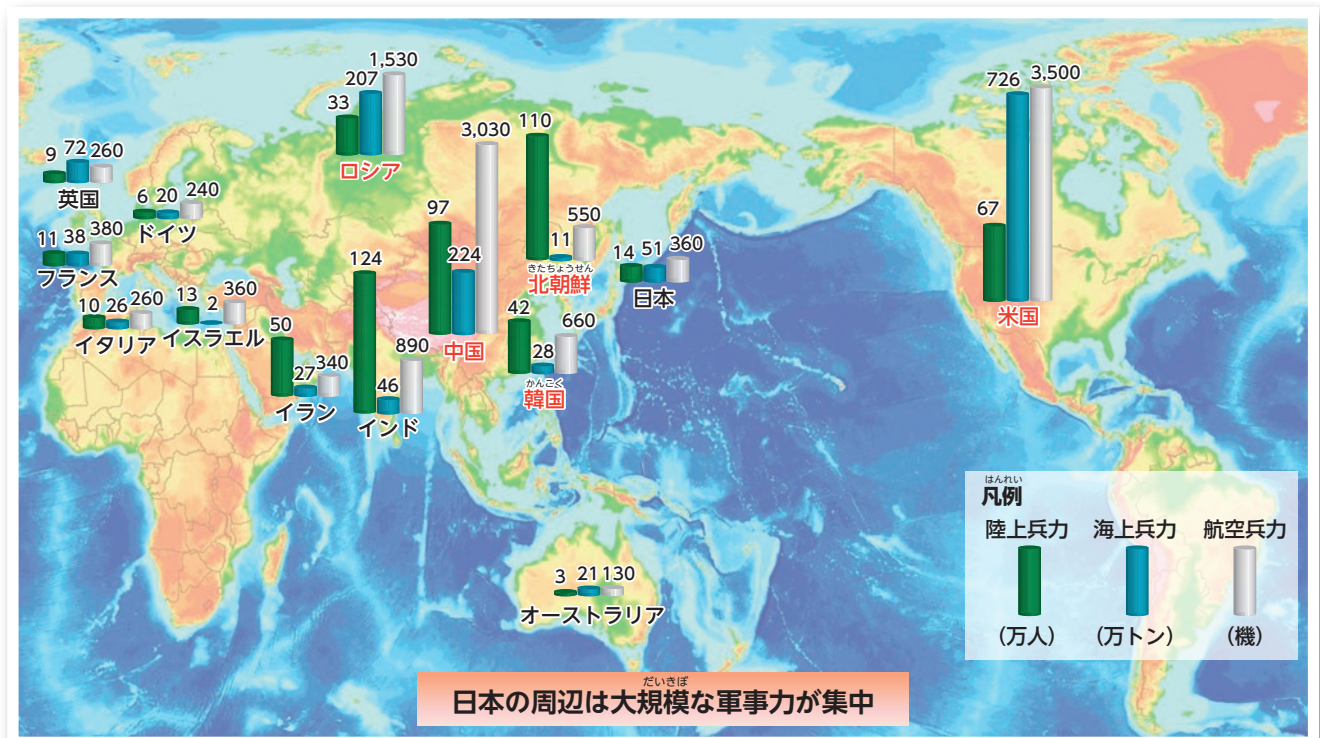


(1) インド太平洋地域

日本が位置するインド太平洋地域は、世界の人口の半数が住む、世界の経済にとって重要な地域です。同時に、中国のさらなる発展などにより、国と国との力関係に複雑な影響が生じ、特にアメリカと中国との間で政治・経済・軍事・技術など様々な分野での競争が激しくなっています。中でも、技術をめぐっては、先進的な技術を使える国が、国と国との関係において有利に立てるとの考えから、自分の国の新しい重要な技術が、敵になるかもしれない国に渡らないような政策が重要になってきています。

また、インド太平洋地域の国々の中には、わたしたちが大事にしている自由や民主主義といった価値観を必ずしも共有していない国があるだけでなく、強大な軍事力を有する国が集中しています。国際的なルールを無視して、軍事力を使って自分の国の主張を押し通したりするなど、一方的に行動する国も存在します。例えば、みなさんもロシアがウクライナに軍事攻撃を行ったことはニュースで見ていると思います。このような中で、**ルールに基づいた、自由で、開かれたインド太平洋地域を守っていくことがますます重要**になってきています。

日本の周りの安全保障環境



日本の周りには、世界の中でも大きな軍事力を持つ国が集まっているんだね。

それだけでなく、中国、北朝鮮、ロシアなどは、軍事力をさらに強化し、軍事活動を活発化させているよ。日本にとって、国の防衛はとてとても重要な課題なんだよ。





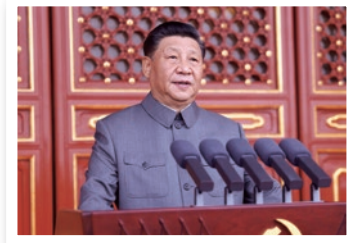
(2)中国

中国は、とても速いペースで国防費を増加させ、軍事を強化しています。また、日本の固有の領土である尖閣諸島周辺で活動を活発化させ、南シナ海では軍事施設の整備を行うなど、軍事も使って一方的に自分の主張を押し通そうとしています。こうした中国の動きは、日本を含む地域と国際社会の安全保障上の強い懸念となっており、こうした傾向は近年より一層強まっています。中国がルールに基づき行動することが求められています。

中国の軍事力

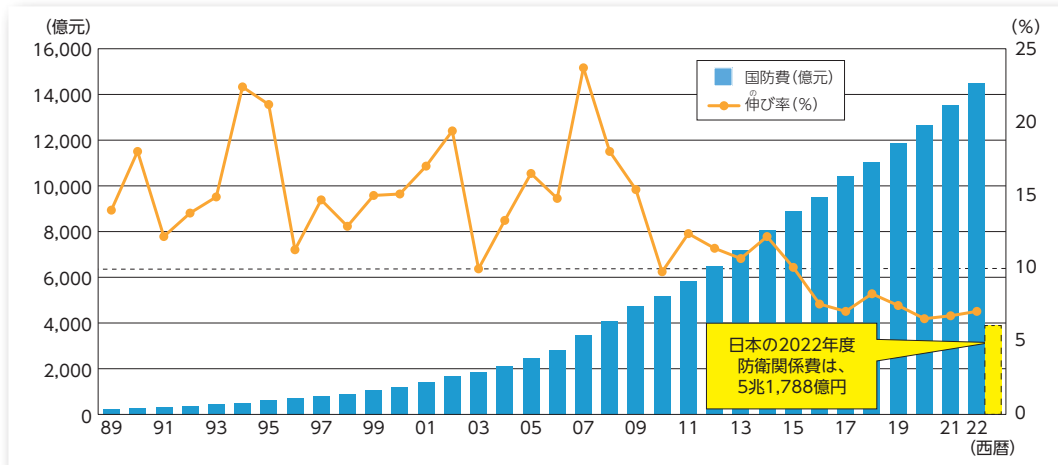
中国は近年、詳しい説明をしないまま、とても速いペースで軍隊にけるお金である国防費を増やしています。こうしたお金を使い、中国は核兵器やミサイル、艦艇や航空機といった軍事を急速に強化しています。

このような軍事の強化は、台湾の独立や、ほかの国が台湾の独立を支援することを思いとどまらせることなどを目的としていると考えられます。さらに、中国は「世界一の軍隊」を目指すとしており、アメリカ軍と同じかそれよりも強い軍隊をつくらうとしているとみられます。



中国共産党創立100周年祝賀大会で演説をする習近平総書記
【中国通信／時事通信フォト】

中国が公表している国防予算の推移



2019年に就役した中国初の国産空母「山東」
【Avalon／時事通信フォト】



J-20戦闘機(第5世代と言われる新しい戦闘機)
【ImagineChina／時事通信フォト】

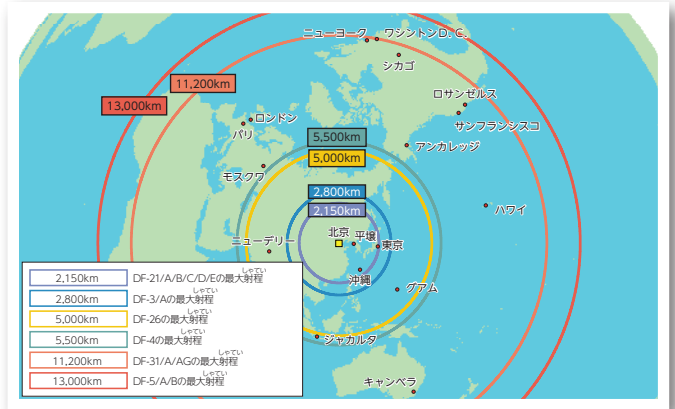


中国のミサイル戦力

中国はさまざまな種類のミサイルを数多く保有しています。こうしたミサイルの中には、核兵器を搭載することができるものもあります。

右の図は、中国が保有している弾道ミサイルの射程(届く距離)を地図に示したものです。日本はもちろんのこと、アメリカやヨーロッパまで届くことがわかります。

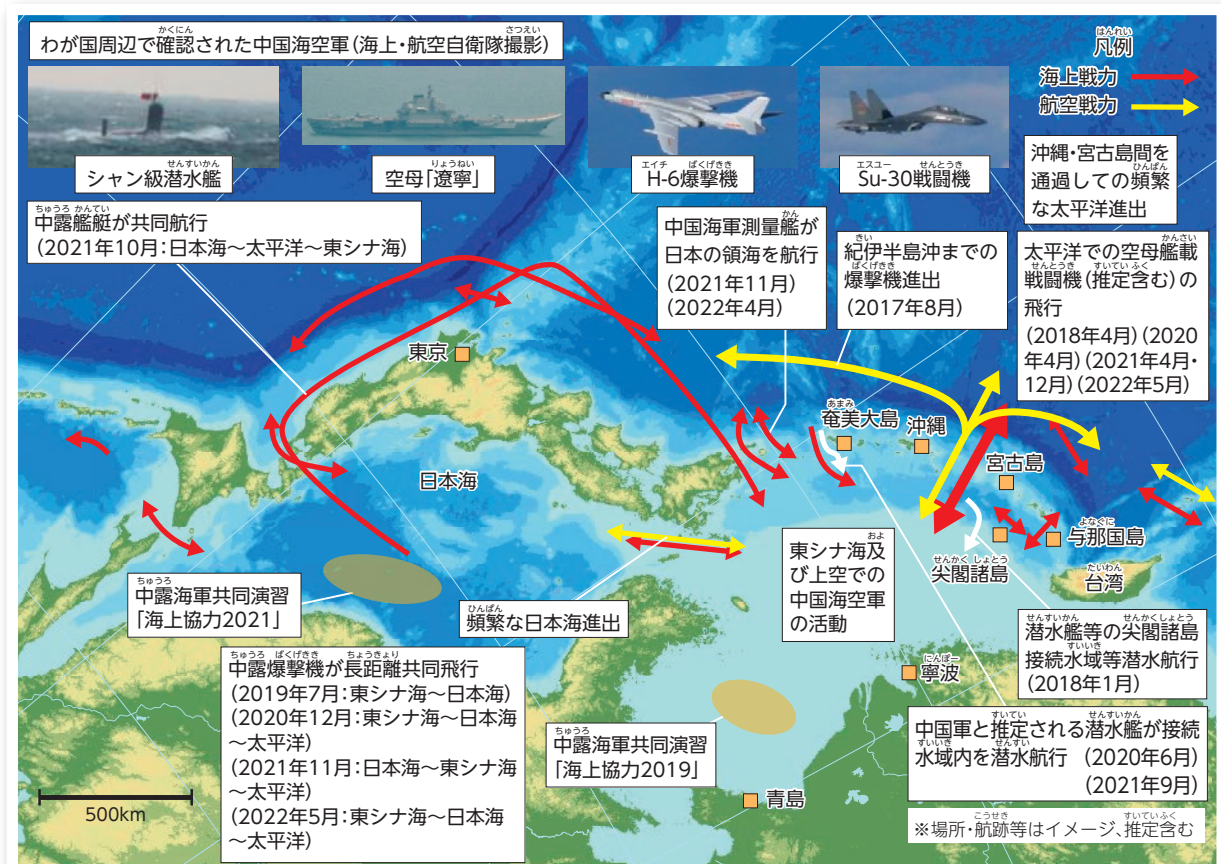
中国が保有する弾道ミサイルの射程 (北京(中国)から発射した場合のイメージ)



日本周辺の海や空での活動

中国軍の艦艇や航空機は近年、日本の周辺の海や空での活動を拡大・活性化させており、沖縄本島と宮古島の間や大隅・対馬・津軽・宗谷海峡なども頻繁に通過しています。2021年には、中国軍の艦艇がロシア軍の艦艇と合計10隻で共同演習を行いながら、日本の周りをなぞるように航行しており、日本に対して力を見せつけることを目的としていたと考えられます。

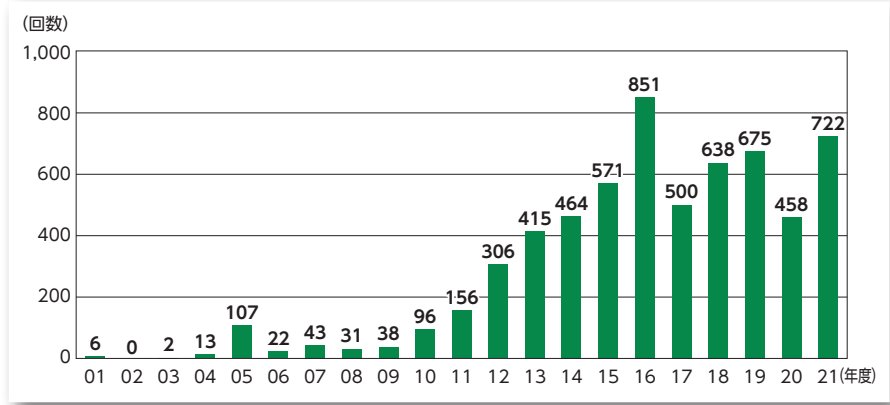
日本周辺海空域における最近の中国軍の主な活動(イメージ)



中国軍の航空機の活動

中国軍の戦闘機や爆撃機などの航空機は毎日のように日本の近くまで飛んできており、これに対して自衛隊は、日本の領空に侵入されないよう、戦闘機の緊急発進(スクランブル)を行って対応しています。中国の航空機に対して、一番多かった2016年度には851回、また、2021年度もそれに次ぐ722回も緊急発進をしました。

中国の航空機に対する緊急発進回数の推移



尖閣諸島周辺での船舶・航空機の活動

中国政府の船舶は日本の固有の領土である尖閣諸島周辺にほぼ毎日やってきており、日本の領海への侵入も繰り返しています。尖閣諸島周辺の日本の領海で独自の主張をする中国政府の船舶の活動は国際法に違反しています。こうした船舶には機関砲のような武器をのせているものもあり、また、日本の漁船に近づこうとする事案も発生しています。

南シナ海での活動

中国は、東南アジアの国々との間で、南シナ海にある南沙(スプラトリー)諸島や西沙(パラセル)諸島の領有権(ある土地がどの国のものなのか)について争っていますが、そうした争いが解決しないまま、国際的なルールに基づかず、埋め立てや軍事施設の整備などを強行しています。

南シナ海における紛争の平和的な解決を目指し、フィリピンは、中国を国際的な仲裁裁判(国と国との争いについての裁判)所に訴えました。2016年に裁判所により、フィリピンの主張を認める判断が下されたにもかかわらず、中国はこれを無視し続けています。

日本としては、このように**中国が、国際的なルールに基づかず一方的な行動を続けていることに強く反対**しており、国際社会からも同様の懸念が示されています。

2014年8月



レーダー・通信施設



2020年3月

航空機用格納庫(拡大写真)や滑走路



南シナ海にあるファイアリー・クロス礁の軍事拠点化(CSIS/AMTI/Maxar)



きたちょうせん (3) 北朝鮮

きたちょうせん かくへいき みと かくへいき だんどう
 北朝鮮は核兵器保有などを認められていないにもかかわらず、核兵器や弾道ミサイルの開発を続けてきており、今では、弾道ミサイルに核兵器をのせて日本を攻撃する能力を持っているとみられます。こうした北朝鮮の軍の動きは、日本や国際社会の平和と安全を脅かすものになっています。さらなる挑発行動に出る可能性も考えられ、こうした傾向は近年より一層強まっています。

きたちょうせん 北朝鮮の政治体制

きたちょうせん きむじょうん けんりよく
 北朝鮮では、金正恩委員長がとて大きな権力を持っています。周りの幹部は金正恩委員長にほかの国との関係などに関する意見を言うことが難しいとも言われており、北朝鮮が軍事的な挑発行動に走る可能性など、今後の動きを予想することは簡単なことではありません。

ちょうせんろうどうとう きむじょうん ちょうせん
 朝鮮労働党の会議でスピーチを行う金正恩委員長【朝鮮通信=時事】



きたちょうせん かくへいき だんどう 北朝鮮の核兵器・弾道ミサイル

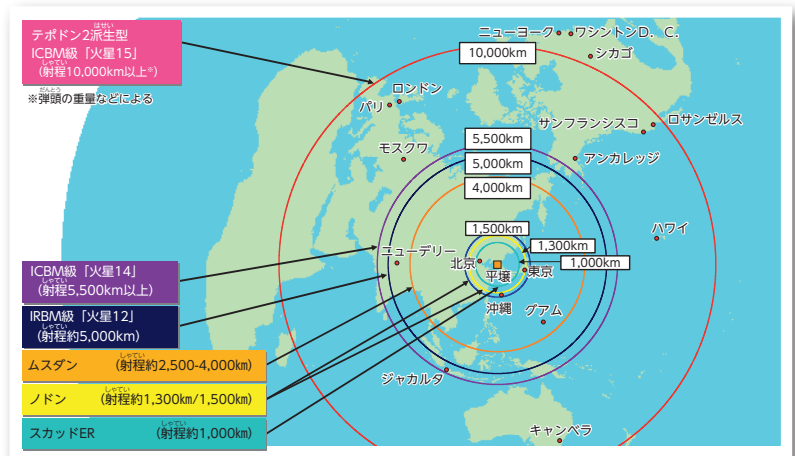
きたちょうせん かくへいき だんどう
 北朝鮮の核保有は認められていません。北朝鮮に対しては、国際社会が国連の安全保障理事会などを通じて、これまで何度もすべての核兵器や弾道ミサイルをなくすよう求めてきました。しかし北朝鮮は、これまで6回の核実験を実施し、とても速いスピードで弾道ミサイルなどの開発を推し進めています。

きたちょうせん とど だんどう
 今では、北朝鮮は日本にも届く弾道ミサイルを数百発持っており、これらのミサイルに核兵器をのせて日本を攻撃する能力を持っているとみられています。

きたちょうせん
 近年は、変則的な軌道で飛んだり、音の速さを大きく上回るスピードで、低い高度を飛ぶとする新しい弾道ミサイルも含め、立て続けにミサイルの発射を繰り返しており、その中には潜水艦から発射するものや、鉄道から発射するものもあります。こうしたミサイルは、地上に固定された発射台から発射するミサイルと比べ、いつ・どこから撃つのかを事前に知ることが困難です。

とど だんどう かくへいき
 特に2022年に入ってから、アメリカ全土にも届くとする新しい大陸間弾道ミサイル(ほかの大陸を攻撃できるくらい長い距離を飛びミサイル)級の発射も繰り返し、国際社会の平和と安全に対する深刻な脅威となっています。

きたちょうせん びんやん 北朝鮮(平壤)を中心とする 北朝鮮が保有している弾道ミサイルの射程(イメージ)



だんどう アイタービーエム きむじょうん
 新型大陸間弾道ミサイル(ICBM)級「火星17」と金正恩委員長(朝鮮中央通信の報道)【朝鮮通信=時事】



きたちょうせん ほっしや
 北朝鮮が2021年9月に発射したとする鉄道発射型のミサイル【朝鮮通信=時事】

(4) ロシア

ロシアは、核戦力を含め、軍の装備を新しいものにし、日本の周りも含めて軍の活動を活発化させており、このような動きを懸念を持って注視する必要があります。また、隣の国であるウクライナのNATO（アメリカやヨーロッパの国々が参加する同盟関係）参加への反対などを背景として、2022年2月から軍による侵略を開始しました。これは、力によって一方的に現状を変えようとする行動であり、国際法に違反するものです。このような行動を認めることはできません。

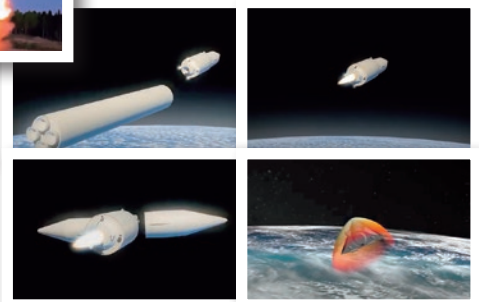
ロシアの軍事力

ロシアは、核兵器をのせることができる大陸間弾道ミサイルや潜水艦から発射する弾道ミサイル、長距離爆撃機（とても長い距離を飛ぶことができる爆撃機）を、アメリカと同じくらい数多く保有しています。核兵器と核兵器をのせることができるミサイルや爆撃機などの兵器をあわせて、核戦力と呼びます。ロシアはこうした核戦力について、さらに新しい装備を開発したり、導入したりする動きを進めています。また、飛ぶスピードが音の速さを大きく上回るミサイルなど、新たな兵器の開発や配備も進めています。



新型の大型ICBMサルマト
【ロシア国防省】

音速の20倍以上の速度で飛ぶとされる極超音速滑空兵器アヴァンガルド
【ロシア国防省】



日本周辺や北方領土でのロシア軍の活動

ロシアは近年、日本周辺での活動や、日本固有の領土である北方領土での活動を活発化させています。また、日本の周りでは、ロシア軍と中国軍が、爆撃機を共同で飛行させたり、艦艇を共同で航行させたりするなど、連携を強化する動きがみられています。

2021年10月、ロシア軍と中国軍の艦艇計10隻が日本の周りを航行



ウクライナへの侵略

ロシアは、隣の国であるウクライナのNATO参加に対する反対などを背景として、2022年2月から軍によるウクライナへの侵略を開始しました。これは、力によって一方的に現状を変えようとする行動で、国際法に違反するものです。そして、国際社会にとっても、とても深刻な事態であり、日本は厳しく非難し、ロシアへの輸出などを停止するといった強い対応をとっています。

ウクライナ国内でのロシア軍の装甲車【SPUTNIK/時事通信フォト】



日本は第二次世界大戦の後、再び戦争によるいたましい被害を繰り返すことがないように、平和国家を目指して努力を重ねています。この平和主義の理想をかかげる日本国憲法のもと、日本の平和と安全を守るため、自衛隊を保持・整備・運用しています。

けんぽう 憲法第9条と自衛隊の関係

日本国憲法は、第9条に戦争放棄、戦力不保持、交戦権を認めないことを定めていますが、これは、国として当然に保有している自衛権(外部からの攻撃があった場合に、国を守る権利)を否定するものではなく、自衛のための必要最小限度の武力を行使することは認められています。したがって、外国が武力を用いて攻撃してきた場合に、国を守るための必要最小限度の防衛力として自衛隊を持つことは、憲法第9条のもとでも認められています。

けんぽう 日本国憲法

第9条

- ① 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
- ② 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

自衛隊の持つ防衛力を実際に用いることについて、憲法第9条を読むと、国と国との関係における「武力の行使」をすべて禁止しているように見えます。しかし、外国が武力を用いて日本を攻撃してきた場合や、他国に対する攻撃により日本の存立が脅かされ、国民の生命・自由・幸福追求の権利が根底から覆される明白な危険がある場合に、自衛隊が国を守るために武力を行使することが認められています。

ただし、このような場合でも、ほかに適当な手段がなく、必要最小限度の実力行使であることが求められます。相手国の領土の占領などは、自衛のための必要最小限度を超えるものと考えられるので、認められません。



4

日本の防衛の基本政策



これまで日本は日本国憲法のもと、専守防衛を貫き、ほかの国を脅かすような軍事大国とならないとの基本的な考えで、国の防衛に取り組んできました。ここでは、このような日本の防衛の基本政策について見ていきましょう。

専守防衛

専守防衛とは、外国から武力による攻撃を受けた時にはじめて防衛力を用い、その場合であっても、日本を守るために必要最小限のものとどめるなど、憲法の精神に則った受動的な防衛戦略の姿勢のことをいいます。

軍事大国とならないこと

日本は、国を守るための必要最小限を上回り、ほかの国を脅かすような強大な軍事力を保持することはありません。

非核三原則

非核三原則とは、核兵器を持たず、作らず、持ち込ませずという原則を指し、日本はこれをかたく守っています。



文民統制の確保

文民とは一般に軍人ではない人を指すとされています。文民統制はシビリアン・コントロールともいい、民主主義の国において国民の代表である政治が軍事力を統制することを意味します。

日本の場合、国会、内閣、防衛省という三つのレベルで、政治による自衛隊への統制がはたらく仕組みを設けています。

まず、国民を代表する国会が、自衛官の人数、主な組織などを法律・予算の形で決定するといった権限を持っています。

次に、内閣の一員である内閣総理大臣や防衛大臣は、憲法において文民でなければならない、つまり、現役の自衛官であってはならないとされています。内閣総理大臣は自衛隊に対する最高の指揮監督権を持っており、防衛大臣は自衛隊の仕事を統括します。

防衛省においても、防衛大臣がトップとして自衛隊を管理・運営することに加え、防衛副大臣、防衛大臣政務官などが防衛大臣を助ける体制をとっています。

以上のように、文民統制の制度を整備していますが、これがきちんと機能するためには、国民のみなさんひとりひとりが国の防衛に対して関心を持っていただくことが重要です。

5

国を守るために必要なお金 —防衛関係費—

国を守る組織である自衛隊がその能力を発揮するためには、**装備品(戦車、護衛艦、戦闘機など)**を整備したり、しっかりと自衛隊員の教育・訓練をする必要があります。このような取組を「防衛力整備」といいます。「防衛力整備」のために必要となるお金を「防衛関係費」といい、毎年必要なお金(=予算)を確保し使っています。

防衛力整備はどのようにして考えるの？

日本の周りの安全保障環境がこれまでになく厳しさを増す中、防衛力を強化するスピードを速めていく必要があります。防衛省・自衛隊では、国家安全保障戦略、防衛計画の大綱、中期防衛力整備計画といった戦略や計画にもとづいて、防衛力整備を進めています。

毎年の防衛関係費ができるまで

① 将来(おおむね10年程度)の戦略や防衛力の目標を決める

国家安全保障戦略 外交政策及び防衛政策を中心とした国家安全保障の基本方針

防衛計画の大綱 今後の防衛の基本方針、防衛力の役割や保有すべき水準を規定

② 5年間の国の防衛に必要な金額や整備する主な装備品の内容を決める

中期防衛力整備計画 5年間で必要なお金の総額と主な装備品の整備数量を示す

③ 毎年の国の防衛に関する予算を決める

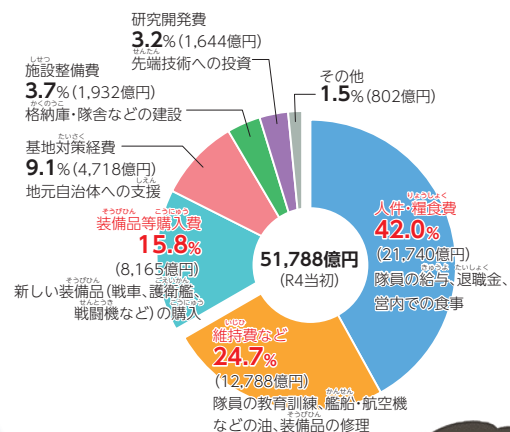
年度予算 情勢を踏まえて、各年度ごとに必要な経費を予算として計上

お金は何に使われている？

令和4(2022)年度の日本の予算全体は約108兆円になりますが、そのうち防衛関係費(防衛力整備に必要なお金)は約5兆円になります。

その内訳としては、約4割が自衛隊員の給料や食事などのお金(人件・糧食費)、約2割が燃料の購入や施設の維持管理などに必要なお金です。新しい装備品などを購入するためのお金は、約2割を満たしません。

防衛関係費(当初予算)の内訳(令和4(2022)年度)



自衛隊には、
全国でどれぐらいの人がいるの？

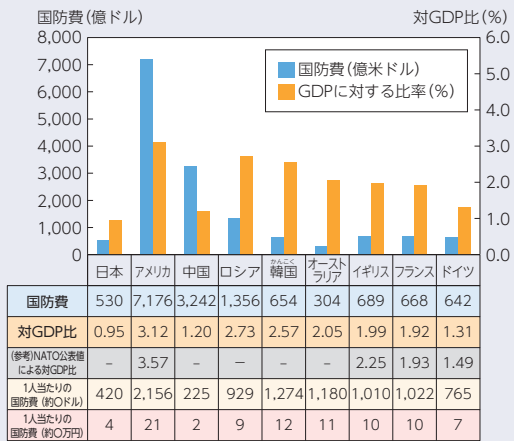
自衛官だけでも20万人以上、
それ以外にも技官や事務官など
様々な人たちが働いています。





外国との国防費の比較

主要国の国防費(2021年度)



予算の制度は国ごとに違うことなどから、国防のために使っているお金が多いか少ないかを正確に比較することは困難です。

そのうえで、日本の防衛関係費と各国が公表している国防費をアメリカの通貨ドルに換算すると、左のグラフのとおりとなります。

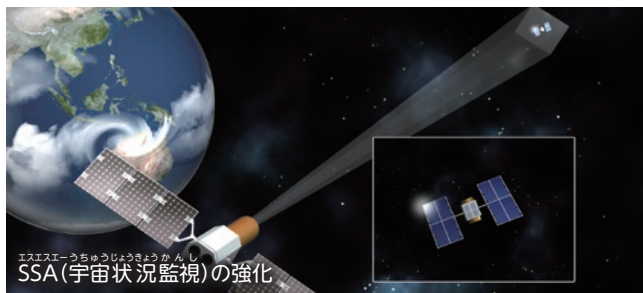
日本はG7の国々やオーストラリア、韓国と比べても国防費の対GDP比(国防費をGDP(Gross Domestic Product: 国内総生産。国内で一定期間内に生産された物やサービスの付加価値の合計額)で割った比率)は最も低いです。また、国防のために使われるお金を人口で割って、1人当たりの国防費を計算した場合でも、日本はほかの国より低い水準となっており、防衛力を強化するために必要なお金をしっかりと確保していく必要があります。

防衛省・自衛隊の取組

陸・海・空という従来の領域のほかに、宇宙・サイバー・電磁波といった新たな領域を含む、すべての領域を横断的に連携させ、それぞれの領域における能力をうまく組み合わせ、全体として発揮できる能力を大きくするための新たな防衛力(多次元統合防衛力)の構築を目指し、予算を使って様々な取組を進めています。



宇宙・サイバー・電磁波などの領域における能力の獲得



従来の領域における能力の強化



6

日本を防衛するための 自衛隊自身の取組

日本を防衛するための手段には、①日本自身の防衛力を強化すること、②日本とアメリカの同盟関係を強化すること、③各国との協力関係を強化することの三つが挙げられます。ここではまず、日本自身の防衛力を強化するための自衛隊の取組について見てみましょう。

普段からの情報収集・警戒監視

日本は四方を海に囲まれ、6,800あまりもの島々や広大な排他的経済水域（水産資源や鉱物資源の権利がある水域）を有しています。日本の領海と排他的経済水域の面積は世界で第6位もの広さがあります。この広大な海域でどのような事態が起きてても対応できるよう、自衛隊は普段から日本の領海・領空とその周辺の海空域で情報収集や警戒監視を行っています。

具体的には、海上自衛隊と航空自衛隊が、航空機やレーダーサイトなどにより、日本周辺の海域での船舶の状況や、日本とその周辺の上空の状況を24時間態勢で見張っています。

また、主要な海峡では、陸上自衛隊の沿岸監視隊や海上自衛隊の警備所などが同じく24時間態勢で見張っています。このような情報収集・警戒監視で得られた情報は、海上保安庁などの関係省庁にも共有し、連携を強化しています。

わが国周辺海空域での警戒監視のイメージ



警戒監視にあたる海自哨戒機

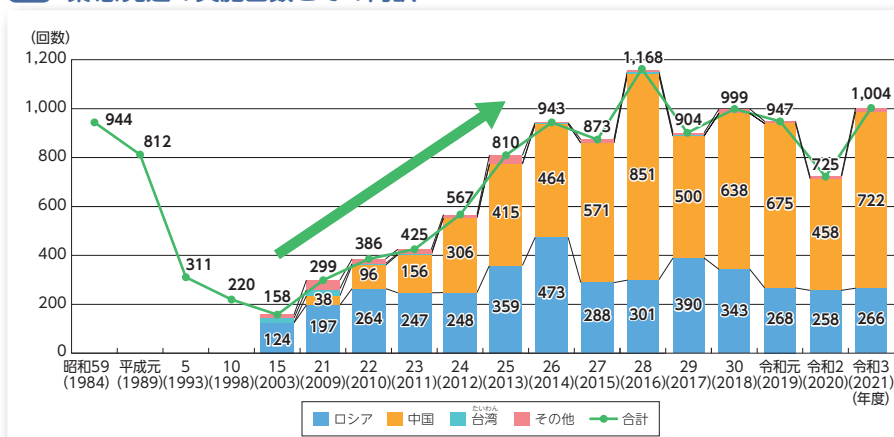




外国の航空機や潜水艦などへの対処

警戒監視により、日本の領空に侵入するおそれのある航空機を発見した場合には、航空自衛隊は戦闘機などを緊急発進(スクランブル)させ、その航空機の状況を確認し、行動を監視します。さらに、航空機が実際に領空に侵入した場合には、退去の警告などを行います。2021年度には航空自衛隊は1年間で1,004回もこの緊急発進を行いました。右のグラフのように、

緊急発進の実施回数とその内訳



対応した航空機は中国とロシアのものが大半を占めています。

また、潜水艦が海の中に潜ったまま外国の領水(領海と内水(=湾や河川など、領海より内側の水域)の)内を航行することは国際法で認められていません。日本の領水内にこのような潜水艦がいた場合、海上自衛隊の艦艇などが探知・識別・追尾といった対処を行います。

北朝鮮の工作船など、武装工作船と疑われる不審な船に対しては、基本的には海上保安庁が対処します。しかし、海上保安庁では対処できない場合や対処が困難な場合には、自衛隊も海上保安庁と連携して対処を行います。



緊急発進(スクランブル)準備中の空自戦闘機



緊急発進(スクランブル)って
どんなことをするの？

基地でも空でも全力ダッシュだよ。スクランブルの命令が出ると、1秒の無駄もなく準備をして、飛び立ち、日本の領空に他国の航空機が国際法に違反して勝手に入ってくる前に現場の空へ駆けつけなくてはいけないんだ。雨や風の中でも隊員が協力し、細心の注意を払って任務にあたっているよ！



潜った状態でやってくる潜水艦は
どうやって見つけるの？

音や磁気等を感じ取ると海中の色々なことがわかるんだ。護衛艦や潜水艦、航空機などにはそのための機械も積んでいるよ。隊員の中には、海中の音を耳で聴き分けて潜水艦の種類を当てる隊員たちもいるみたい！





日本の島々を守るために

日本が有する多くの島々を守るためには、自衛隊の部隊をきちんと配備しておくこと、そして状況に応じて部隊を速やかに移動させることが必要です。また、普段からの情報収集や警戒監視により、敵からの攻撃の前触れを早期に察知し、航空機や艦艇を使って、空や海でより優位に立つことができる状況を確保することが重要です。

事前に敵からの攻撃の前触れを察知した場合には、敵が攻めてくると予想される場所に敵より先に自衛隊の部隊を移動させ、敵の部隊が日本の島に近づいたり、上陸したりすることを阻止することになります。

また、海や空で相手より優位に立つことが困難になった場合でも、敵の部隊が攻撃できる範囲よりも遠くから、ミサイルなどを使って、敵の部隊の接近や上陸を阻止することになります。

それでも万が一日本の島を敵に占拠されてしまった場合には、自衛隊の航空機や艦艇によって島にいる地上の敵を攻撃して制圧した後、陸上自衛隊の部隊を空や海から着陸・上陸させるなど、あらゆる手段で敵から取り返すことになります。

こうした作戦を行うことができるよう、防衛省・自衛隊は九州や沖縄に新しい部隊を配置したり、敵が攻撃できる範囲よりも遠くから対応できる「スタンド・オフ・ミサイル」の整備を行ったり、また、部隊を素早くかつ遠くに輸送できるV-22オスプレイというヘリコプターと飛行機の特性をあわせ持つ航空機を導入したりするなど、様々な取組を進めています。



訓練の様子



自衛隊には、体力自慢の人が入るの？
テレビで見るほふく前進とか大変そう。



皆さん基地内などで体力づくりに励んでいます。はじめは自信がない人も多いです。また、体力を使う仕事だけではなく、その人に応じた多様な仕事に取り組むチャンスがあります。

もちろんほふく前進など大変な訓練もあります。ちなみにほふく前進には種類がありますが、歩くスピードよりも速くほふく前進できる人もいますよ。



ミサイル攻撃から守るために

仮に**弾道ミサイル**で攻撃された場合には、日本を守るために、飛んでくる**弾道ミサイル**を撃ち落とさなければなりません。

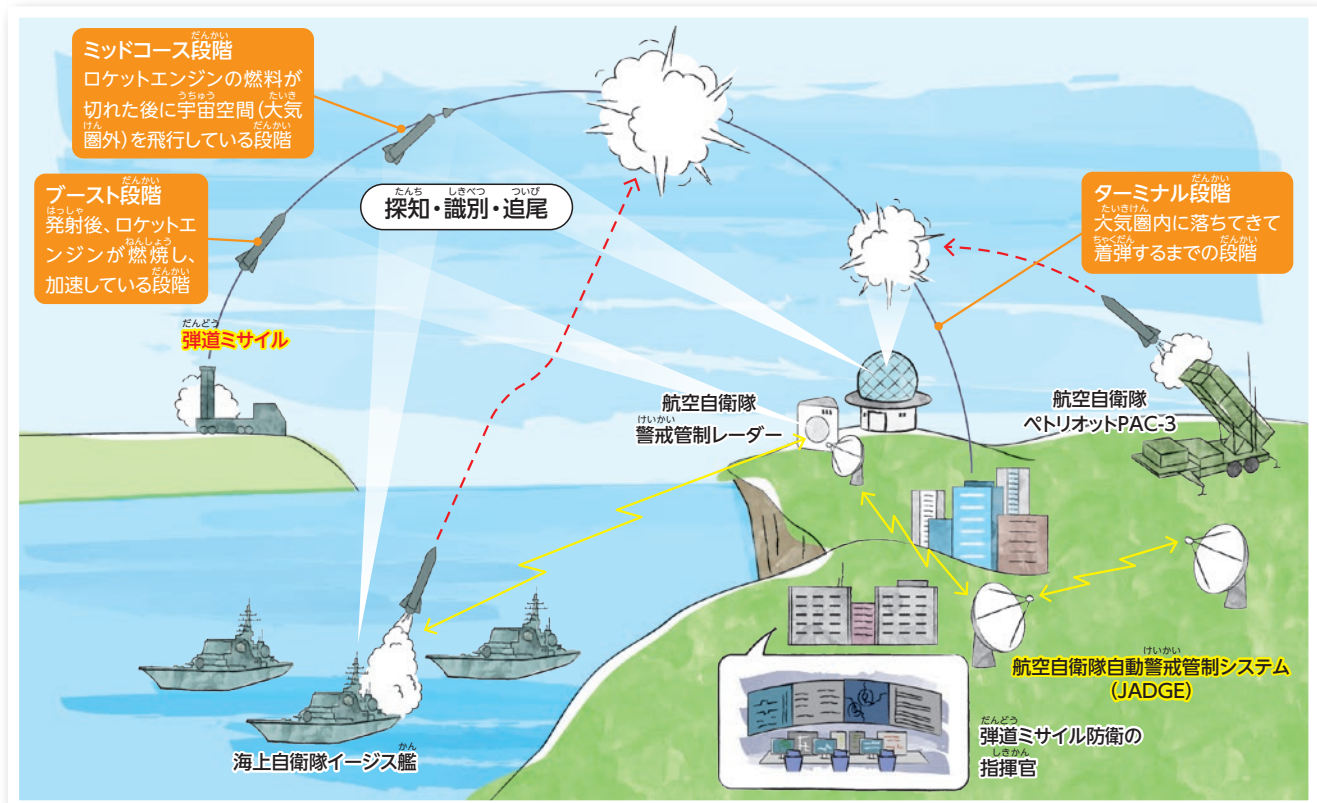
弾道ミサイルは発射されると、ロケットエンジンにより加速し、宇宙空間まで高く上がります。ロケットエンジンの燃料が切れた後も、しばらくは宇宙空間を飛び続け、その後宇宙空間から大気圏内に落ちてきて、最終的に地上に着弾します。

日本に向けて弾道ミサイルが発射された場合、自衛隊はまず、様々なレーダーを使って、ミサイルがどこを飛んでいるのか、どこに向かっているのかなどを調べます。そして、高性能なレーダーやミサイルシステムを搭載している**イージス艦**という艦艇からミサイルを発射し、宇宙空間を飛んでいる**弾道ミサイル**を撃ち落とします。宇宙空間で撃ち落とせなかった場合でも、地上に配備されている**PAC-3**というミサイルで撃ち落とすことで、日本を弾道ミサイルから守れるようにしています。



ミサイル攻撃から日本を守るイージス艦

🚢 ミサイル防衛のイメージ図



かんちょう
艦長になるには
どうしたらいいの。

海上自衛隊入隊後、様々なコースから幹部になり、艦艇の職域に選ばれたのち、艦艇や地上で様々な仕事を体験しながら艦長を目指します。



日本を守るためには、陸海空といった従来の領域にとどまらず、宇宙領域、サイバー領域、電磁波領域といった「新たな領域」にも対応をしていくことが必要です。防衛省・自衛隊はこうした「新たな領域」においても様々な取組を進めています。

宇宙・サイバー・電磁波という「新たな領域」と世界の動き

宇宙空間には、様々な種類の人工衛星が打ち上げられており、天気予報、テレビの衛星放送、携帯電話のGPSによる位置情報機能など、日常生活の様々な場面で役立っています。また、インターネットなどの情報通信ネットワーク上の仮想空間のことをサイバー空間と呼びますが、このような情報通信ネットワークは、わたしたちの生活のあらゆる場面で必要不可欠なものになっています。さらに「電磁波」というと少しなじみの薄い言葉のように思われる人もいますが、テレビやラジオの放送や、携帯電話の通信などに使われている電波も電磁波であり、わたしたちの日常生活の中に深く入り込んでいます。

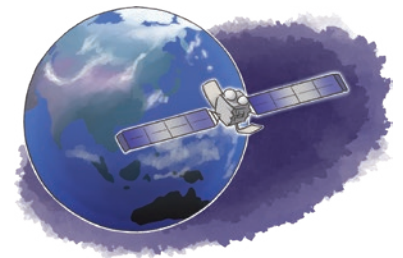
このような宇宙・サイバー・電磁波の領域においては、科学技術が急速に発展し、わたしたちの生活をますます便利にしている一方、安全保障上の「新たな領域」として、各国が関連する能力を急速に開発しています。

宇宙

人工衛星を活用すれば、地球上のあらゆる地域の観測や通信、位置の測定を行うことができます。このため、主要国は、軍事施設の偵察やミサイルなどの発射を探知する衛星をはじめ、宇宙を利用した能力を上げることに力を注いでいます。

一方、自分の国が軍事的に有利な状況を確保するために、他国が宇宙を利用することを妨げる能力も重視されています。

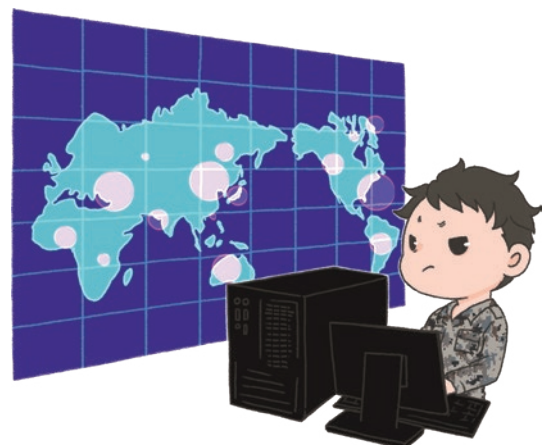
具体的には、中国やロシアが衛星を破壊することを目標としたミサイルを発射したり、衛星を攻撃するための衛星(キラー衛星)を開発していると指摘されています。このような宇宙空間における脅威の増大が指摘される中、アメリカをはじめ、宇宙空間を「戦闘領域」や「作戦領域」と位置づける動きが広がっており、宇宙の安全保障は差し迫った課題となっています。



サイバー

日本を守るためには、自衛隊の部隊を動かしたり、集めた情報を共有したりすることが大事です。その際に、情報通信ネットワークはとても重要です。一方、国家が関与する高度なサイバー攻撃など、サイバー空間における脅威は増大しています。中国、ロシア、北朝鮮は、サイバー攻撃を増加させているといわれ、軍としてもサイバー攻撃能力を強化しているとみられています。サイバー攻撃を受けると、情報が勝手に抜き取られたり、システムの動作が妨害されてしまったり、乗っ取られたりしてしまう可能性があります。電力システムなど、わたしたちの生活に重要な基盤がサイバー攻撃を受ければ、大変な影響を受けるだけでなく、自衛隊が持つ戦車や護衛艦、航空機が動かせなくなるなどの可能性があります。

こういったことを防ぐためにも、サイバー攻撃への対処能力を向上することはとても重要です。





電磁波

電磁波は防衛の分野においても、命令を伝えるための通信機器、敵を発見するためのレーダー、ミサイルを目標に向かわせるための誘導装置などに数多く使われています。そのため現代の作戦では、電磁波が使えなくなると著しく不利になってしまうため、電磁波の領域で優勢を確保することが必要不可欠なものとなっています。

電磁波領域を利用した作戦は「電磁波作戦」と呼ばれますが、**各国は電磁波作戦能力を強化**しています。



「新たな領域」における自衛隊の取組



鬼木副大臣から隊旗を授与される宇宙作戦群司令

宇宙

宇宙空間の安定的な利用を確保するため、防衛省・自衛隊は、2021年度には**宇宙作戦群という専門の部隊を設置**し、JAXAなどの関係機関や、アメリカなどの国とも連携しながら、「**宇宙状況監視(SSA)**」を強化するなどの取組を進めています。

サイバー

サイバー空間における様々な脅威に対応するため、自衛隊は24時間態勢で自らの通信ネットワークの監視やサイバー攻撃への対処を行っています。2021年度には**自衛隊サイバー防衛隊という専門の部隊も設置**しました。さらに、アメリカなど様々な国とも連携しながら、**サイバー領域における能力のさらなる強化**を進めるとともに、陸上自衛隊高等工科大学に**専門のコース**を設けるなど、**人材育成**にも取り組んでいます。



陸上自衛隊高等工科大学のシステム・サイバー専修コース



訓練中の電子戦部隊

電磁波

電磁波領域においては、普段からほかの国の電磁波に関する情報を収集・分析し、日本に攻めてこようとする敵が電磁波をうまく使えないようにすることが重要です。このため、自衛隊では、**九州や沖縄をはじめ全国に専門の部隊の整備を進め、能力を強化**しています。また、攻めてこようとする敵の**レーダーや通信などを無力化するための能力の強化**も進めています。

科学技術の発展は、国の防衛や安全保障にも大きな影響を与えるため、各国は新しい技術の研究や開発に
かけるお金を増やしたり、自分の国を攻撃するかもしれないほかの国に重要な技術が渡らないようにす
るなど、様々な取組を進めています。

日本でも、防衛省・自衛隊だけではなくほかの省庁や企業などとも協力して、優れた技術を防衛に使える
ようにしながら、防衛にとって重要な技術を守ることが必要になっています。

先端技術と世界の動き

近年、人工知能(AI)、量子技術、情報通信技術など、軍事分野以外の技術が急速に発展し、防衛や安全保障にも大きな
影響を与えるようになってきました。このように、これまでの防衛・安全保障に変革を起こすかもしれない技術は「ゲーム・
チェンジャー」と呼ばれています。

人工知能(AI)

人工知能(AI)とは、人間の脳と同じように記憶・判断・推論・学
習する能力を持ったコンピューターのことです。AIを使えば、こ
れまで人間が行ってきた情報の分析や判断などを、もっと速いス
ピードで自動的に行うことができるようになります。

例えば、アメリカやロシアでは、AIを載せた無人の航空機を、人
間が操縦する航空機と一緒に飛行させて、作戦を行う実験を行っ
ています。中国も、AIを様々な武器に搭載して行う「智能化戦争」
を目指しているといわれます。

また、みなさんもツイッターやインスタグラムなどのソーシャルメディアを使っているかもしれませんが、このような
ソーシャルメディアに、AIも使って偽の情報を流すことで、人々の考えや判断に影響を与え、自分の国に有利な状況をつ
くろうとする動きも生じています。



アメリカが開発中のAI無人機スカイボグ【米空軍】

量子技術

量子とは、物質を形作っている原子や、原子を形作っているさ
らに小さな電子・中性子・陽子などのことを指しますが、このよう
な極めて小さな世界では、わたしたちの身の回りにあって目に見
えるものに通用する法則が通用せずに、「量子力学」という原理が
働くことが明らかになっています。

各国では、この量子力学を応用した新たな技術の研究開発が進
められています。例えば、量子力学をコンピューターに応用すれ
ば、現在のスーパーコンピューターでは時間のかかる問題を一瞬
で解くことができます。通信の分野に応用すれば、ほかの人に読
み取られずに情報のやりとりを行うことができるため、暗号通信
に活用することができます。また、わたしたちは現在、GPSなどの
人工衛星に位置情報(ナビゲーション)を頼っていますが、量子技術はその代わりとなる可能性が指摘されています。



ドイツの未来博物館に展示される量子コンピューター
【dpa/時事通信フォト】



情報通信技術(5Gなど)

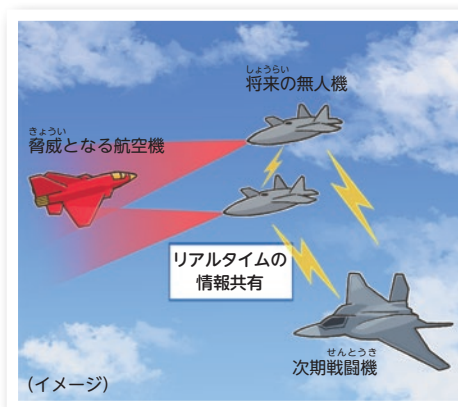
みなさんの使っている携帯電話は4Gでしょうか、5Gでしょうか。5Gとは「第5世代」のことを指しており、1980年代に最初に登場した携帯電話を1G(第1世代)とし、そこから2G、3G、4Gと進化し、日本では現在新しく5Gの携帯電話サービスが広まり始めています。

5Gへの進化によって、単に多くの情報を速くやりとりできるようになるだけでなく、やりとりをする際の遅延(タイムラグ)もほとんどなくなり、たくさんの機器を同時にネットワークにつなげることができるようになります。タイムラグがなくなり、遠隔操作での自動車の運転などにも安心して使えるようになりますし、携帯電話だけでなく例えば冷蔵庫やエアコンなどの電化製品もネットワークにつなげることができるようになります。防衛の分野においても、複数のドローンの操縦など新たな活用方法に注目が集まっています。



先端技術などに対する防衛省のアプローチ

先端技術は、防衛省・自衛隊にとっても重要です。例えば、人工知能(AI)は、自動運転や無人コンビニを可能にするだけでなく、**装備品に活用することで、戦闘機の操縦の支援や、無人機の活用による警戒監視任務の無人化・省人化が可能になり、過酷な任務に励む自衛隊員の負担を軽減**することができます。防衛省・自衛隊は、将来的に防衛分野に活用しうる技術を育てるために、企業や大学などの先進的な技術に関する基礎研究に対しての支援なども実施しています。産業界や学术界と連携しつつ、このような取組を進めることで、新たな技術の芽吹きにつながり、日本の科学技術の発展にも貢献しています。



AIを導入した無人機との連携

また、防衛に関係する装備品の開発や生産をする国内の会社は、自衛隊の運用を支える基盤であり、日本の防衛力そのものです。防衛省はこうした国防を担う会社とも日ごろからしっかりと連携しています。

経済安全保障を巡る動向

新型コロナウイルスの影響下において、医薬品などが必要なところに行き渡らなくなるといったことが起こりました。必要な物の供給を確保できなければ、それが国や国民の安全をおびやかすことになりかねません。

また、**アメリカと中国を中心に先端技術の利活用や管理をめぐる国家間競争が激化しており、わが国としても自国の強みとなるような技術を育てつつ、そのような技術が流出しないよう措置を講ずる必要**があります。こうした安全保障と経済を横断する新しい課題が「経済安全保障」という新たな安全保障の課題として、広く認識されるようになってきています。そのため、日本でも2021年にはじめて「経済安全保障」を担当する大臣を置き、翌2022年には「経済安全保障推進法」という法律を策定するなど、政府全体で協力して様々な取組を実施しています。防衛省・自衛隊も、こうした政府一体の取組に積極的に協力しています。



スマホとかSNSとか僕たちに身近なものも防衛や安全保障に関係しているんだね。

急速に技術が発展する中で、国を守るため、防衛省・自衛隊だけでなく、ほかの省庁や企業や研究機関などとも協力し、日本全体として取り組むことが、ますます重要になっているんだよ。



日本と地域、そして世界の平和を守るための日米同盟

日本とアメリカは自由や民主主義といった基本的価値と戦略上の利益を共有する、とても大切な同盟の関係にあります。日米同盟は日本だけでなく、インド太平洋地域、さらには国際社会の平和と安定、そして繁栄に大きな役割を果たしています。

なぜ日本はアメリカと同盟を結んでいるの？

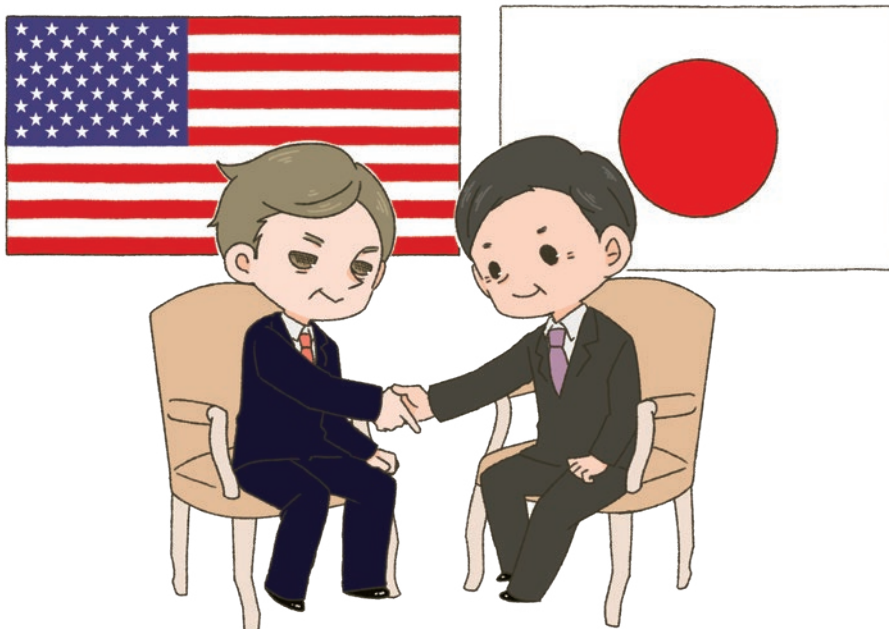
国の平和や安全を守るためには、どのような危険な場面にも対応できるようにしなければなりません。しかし、現在の国際社会においては、どの国も自分たちの力だけで自分の国の安全を守ることは難しくなっています。

そこで、日本は、同じような価値観を持ち、経済面においても関係が深く、また、強大な軍事力を持つアメリカと、日米同盟という強い結びつきを持つことで日本を守ってきました。

日本とアメリカは日米安全保障条約という約束を取り交わしており、その中では、日本が攻撃された場合には、日本とアメリカが共同で立ち向かうことが決められています。この約束によって、もしもどこかの国が日本に対して攻撃をしようとしても、その国は自衛隊だけではなく、世界一の軍事力を持つアメリカ軍とも直接対決することを覚悟しなければなりません。相手国から見ると、世界一の軍事力を持つアメリカと戦うと大きなダメージを受けることは明らかなので、日本を攻撃するのはやめておこう、と思いとどまることになるのです。

また、日本の周りには、大きな軍事力を持っている国家が集中し、中には核兵器を持っている国もあります。こうした国々が軍事力をさらに強化したり、軍事活動を活発化させたりしているため、日本の周りの地域はとても不安定になっています。こうした中で、日本にいるアメリカ軍は、日本とアメリカの利益を守るだけではなく、地域の国々に大きな安心をもたらす存在でもあります。日本とアメリカの協力関係は、インド太平洋地域の平和と安定にとっても重要な役割を果たしているのです。

さらに、日本とアメリカの協力関係は、インド太平洋地域の中だけにとどまりません。現在の世界には、海洋・宇宙・サイバー空間を安定して使うことに対するリスク、海賊行為、大量破壊兵器や弾道ミサイルの拡散、国際テロ、気候変動など、一つの国だけで対応することが難しい安全保障に関する問題が数多く存在しています。日本はアメリカと協力して、こうした色々な国に関わる問題を解決するための取組を進めており、日米同盟は世界の平和と安定にも貢献しているのです。





アメリカとどのように協力しているの？

宇宙やサイバー領域における協力

日本とアメリカは、宇宙やサイバー領域における様々な取組について、情報交換や共同訓練、専門の人材の育成のための協力を行っています。

ミサイルなど空からの脅威への対応

日本とアメリカは、ミサイルや航空機などの日本に対する空からの脅威について、情報を共有したり、どのように協力して対処するかを事前に話し合ったりすることにより、共同で対処する能力を高めています。また、北朝鮮から弾道ミサイルが発射された際には、実際に日本とアメリカで協力して対処しています。

共同訓練・演習

自衛隊とアメリカ軍は普段からいろいろな共同訓練・演習を行っています。そのような訓練などを通じて、それぞれの能力を高めるとともに、お互いの連携を強化させることで、日本とアメリカが共同して対処する力を高めています。



情報収集・警戒監視・偵察活動（ISR活動）

日本とアメリカは、協力して地域における情報の収集や、日本が攻め込まれないように見張る活動を行うことでその効率や効果を高めています。

海洋安全保障

日本とアメリカは、自由で開かれた海の平和と安定を守るため、海洋における監視の情報の共有など、様々な取組を協力して実施しています。

後方支援

日本とアメリカは、日米物品役務相互提供協定（ACSA）という約束を取り交わしています。この協定により、共同訓練や災害派遣、国連PKOなどの国際平和協力業務、日本がほかの国から武力攻撃を受けた場合などの様々な状況で、自衛隊とアメリカ軍がお互いに燃料や食料、輸送や施設の利用などを貸し借りできるようになっています。

日本における大規模災害への対処のための協力

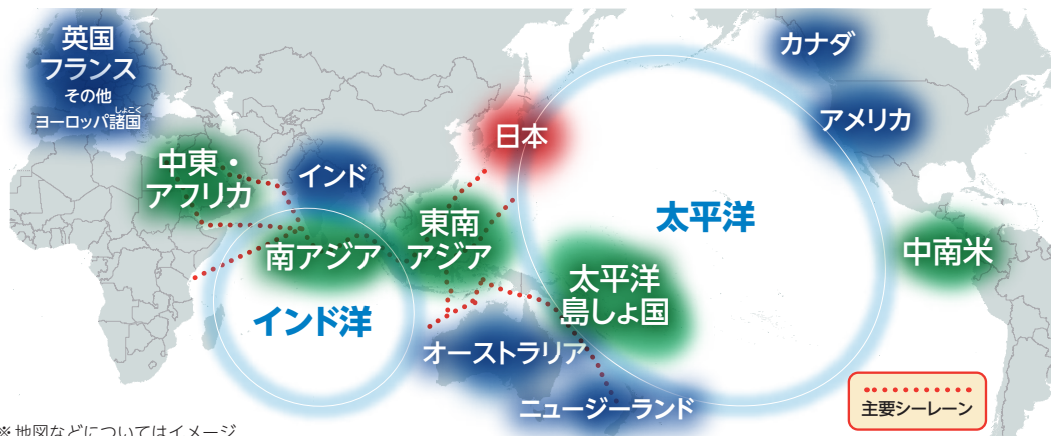
東日本大震災では、アメリカ軍は最も多い時で人員約1万6千人、艦艇約15隻、航空機約140機によって「トモダチ作戦」を行い、その支援活動は日本の復旧・復興に大きく貢献しました。その後も、日本国内での災害においてどのように日米で共同して対応するかについて話し合ったり、一緒に防災演習などを実施したりしています。



アメリカ陸軍によるトモダチ作戦において

国際社会の力関係はとても速いスピードで複雑に変化しており、もはやどの国も一国だけで自分たちの国を守ることはできません。日本や地域・国際社会の平和や繁栄を守るために、防衛省・自衛隊は、外国の国防省・軍との協力・交流を通じて、様々な取組を行っています。

「自由で開かれたインド太平洋」という考え方



※地図などについてはイメージ

インド太平洋地域は、世界の人口の半数が住む、世界の活力の中核であり、主要なシーレーン（商船やタンカーなどの船舶が通る海上交通路）が通過しています。このような状況において、すべての国がルールに基づいて、自由に、安心してシーレーンを使えるようにしておくことは、とても重要になります。

「自由で開かれたインド太平洋」という考え方は、インド太平洋地域を、ルールに基づいた、自由で開かれたものとすることで、地域全体、ひいては世界の平和と繁栄を確保していくとの考え方に根差したものです。

防衛省・自衛隊では、以下の三つの方針で「自由で開かれたインド太平洋」の維持・強化に向けた取組を行っています。

- ① ほかの国の国防省や軍隊との協力や交流を活用し、日本の生活を支える商船、タンカーなどが安心してシーレーンを航行し続けられるようにすること
- ② ほかの国とお互いに理解を深め、信頼関係を築き、不測の事態（予測できないような衝突など）が起きないようにすること
- ③ ほかの国との協力で、地域の平和と安定に貢献すること

主要なシーレーンが通っていることやエネルギー安全保障の観点から、東南アジア、南アジア、太平洋の島国、中東・アフリカ、中南米の国々に対しては、次のページで紹介するような幅広い手段を活用しながら、協力を強化しています。

また、こうした取組は同盟国であるアメリカ以外にも、オーストラリア、インド、イギリス、フランス、ドイツなどのヨーロッパ諸国、カナダ、ニュージーランドといった、「自由で開かれたインド太平洋」の考え方を共有する多くの国々とも協力して行っています。このような国々と次のページにあるような安全保障上の協力を行うことが、シーレーンを含む海域などの安全確保や、ルールを守らない国が現れにくくすることにつながっていきます。





防衛省・自衛隊が行う協力・交流の手段

人的な協力・交流

防衛大臣や陸海空各自衛隊のトップである幕僚長などの会談、実務者による協議や国際会議への参加を通じて、外国の国防省・軍との間でお互いの理解を深め、信頼関係を築くとともに、日本の考え方を諸外国や国際社会に向けて発信しています。

防衛大臣とベトナム国防大臣の会談



艦艇・航空機や部隊を活用した協力・交流

艦艇や航空機のお互いの国への訪問や、他国との訓練、部隊同士の交流などを通じて、信頼を高め合うとともに、相手国の部隊と連携する力を高め、自衛隊の能力の向上や相手国との関係の強化を進めています。

アメリカ、イギリス、オランダ、カナダとの共同訓練(パシフィック・クラウン21)

能力構築支援

自衛隊の経験や優れた能力・技術を活かして、東南アジア、南アジア、太平洋の島国などの国々に対し、安全保障・防衛分野における人材の育成・教育などを行い、各国の軍隊が国際社会の平和や地域の安定のための役割をきちんと果たすことができるよう支援しています。

パプアニューギニア軍楽隊に技術指導をする陸自中央音楽隊員



防衛装備・技術協力

防衛装備品(自衛隊が使う車両や航空機など)の外国への輸出や提供、外国と共同での防衛装備品の開発・生産などを推進しています。こうした取組は、協力の相手となる国やその周辺地域の平和と安定だけでなく、自衛隊のための防衛装備品を生産する日本企業の製造ラインや技術の維持にも役立つものです。

日本からフィリピンに移転された海自練習機TC-90(後ろ)とフィリピン軍兵士



外国語が好きなんだけど、防衛省・自衛隊では語学能力を活かす場所はありますか。

あらゆる職場で語学能力が活かせる可能性がありますよ。海外での任務もありますし、日本国内でも海外の人々との訓練や話し合い、イベントなどでも必要とされ、防衛省・自衛隊では語学能力はとても大切な力の一つです。



自衛隊は、大規模な災害が発生した時には、地方公共団体などと連携・協力しながら、被災者の捜索・救助や医療支援、水や食事の支援など、様々な活動を行っています。

自衛隊の災害派遣の流れ

自衛隊の災害派遣は、都道府県知事などが自衛隊の災害派遣が必要だとお願いをし、これについて防衛大臣などが自衛隊を派遣するしかないと判断した場合に行うことが原則となっています。



ただし、大規模な災害が発生したときには、その都道府県が混乱していて、自衛隊の派遣をお願いする余裕がない場合も考えられます。自衛隊では、全国各地の駐屯地や基地に、災害が起きればすぐに対応する部隊を待機させて、お願いを待つだけでなく、自衛隊の方から支援を提案できるようにしています。

また、災害派遣においては、人命救助や食事の提供、医療支援など被災者に対していろんな手助けを行っています。



行方不明者の捜索にあたる隊員

新型コロナウイルスへの対応

新型コロナウイルスの感染が日本全国に広がっていますが、自衛隊では、都道府県知事などからの要請を受け、看護師(看護官)を病院へ派遣したり、離島で発生した救急患者の方を航空機などで輸送しています。



自衛隊大規模接種センターにおけるワクチン接種の様子



医療支援で点滴準備にあたる隊員

中高生のみなさんからの疑問に対して、コラム形式でご説明しています。
本ページのほか各ページ下部にも記載しています。

疑問に答えます



災害派遣で活動した際のご飯や宿泊はどうしているの？

非常食やテントを持ち出したり、邪魔にならないわずかな場所をお借りして休んだりします。お風呂や大型の炊飯器もありますが、被災者の支援に使用したりすることもありますね。
これらを自前で用意できるのが、自衛隊ならではの強みです。



陸斗3尉



基地や港に泊まっている艦艇はどうなっているの、乗員は何をしているの？

停泊中でも燃料や食べ物を積み込んだり、訓練をしたりしているよ。
造船所で生まれてから寿命が尽きる何十年の間、艦艇は眠らずに生き続けます。
そのために、航海中も停泊中も、私たちが訓練や生活をしながら、交代で大切にお預かりしています。



七海3曹



航空自衛官はみなパイロットなの？

航空自衛隊には、パイロット以外にも多くの大切な仕事があります。飛行場に離着陸する航空機をコントロールする航空管制、航空機整備や補給、弾道ミサイルを撃ち落とすための防空システムPAC-3ペトリオットを扱う高射など。
17、18ページで紹介している宇宙も、航空自衛隊が関わっている分野のひとつだよ。
防衛白書を持っている人は「平和を仕事にする」*の仕事図鑑を見てみてね。
※令和4年版防衛白書 別冊33ページ



空也1尉



海上自衛隊の船では、金曜日にカレーを食べてるって本当に本当？

もちろん！伝統あるカレーを毎週楽しみにいただいています。
艦艇では、食事の材料となる野菜などをたくさん積んでいます。それらを使って、給養員という職種の隊員たちが艦内の調理室で毎日自慢の食事を作っているのです。



大海2尉



空上げ普及させ隊
からっと隊長

航空自衛隊では、基地ごとのオリジナルレシピで作った「空自空上げ」(から揚げ)を食べています。時代は「空上げ」です。空自空上げのキャラクター「からっと隊長」って聞いたことはあるかな？



空美3尉

カレーやから揚げが目立ちますが、陸海空とも色々な食事が作られています。栄養や、隊員の任務に応じたカロリーなどが考えられていますよ。
陸上自衛隊では、「駐屯地ご当地グルメ」として全国の駐屯地で特色のあるおいしい食事が提供されています。



陸斗3尉



女性の艦長やパイロットっているの？

もちろん、いますよ。自衛隊では、戦車や潜水艦乗員、戦闘機パイロットなどを含む多くの職種が女性に開かれています。
女性も男性も、真剣にお仕事をする姿はみなかっこいいですよ！



陸花2尉



働く自衛官の声①

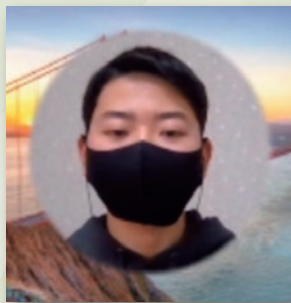
曹士を経験し、パイロット、チーム

「中高生記者インタビュー」について

「はじめての防衛白書」第2版は、中高生に親しみを感じてもらうため、中高生の感想を取り入れるなど「一緒に作る」形を取り入れています。

第2版での新企画であるこのコーナーでは、中高生記者を募集して、皆さんの関心がある職種の自衛官や学生にインタビューを行い、記事の作成にご協力いただきました。今回は自衛隊大阪地方協力本部を通じて、中高生有志の方々に記者として参加いただいております。

中高生記者三宅さんに、陸上自衛隊 陸上総隊第1ヘリコプター団 寺田1尉にインタビュー後、記事を書いていただきました。



中高生記者

三宅 悠人さん(高校1年生) ※取材時

16歳の高校1年生です。特技は少林寺拳法です。

自衛隊を将来の選択肢の1つとして考えてます!!

今回はV-22のパイロットをされている寺田1尉にお話を伺うことができました。インタビューした率直な感想として、とても気さくで話しやすい方だなと思いました。

寺田1尉は陸上自衛隊高等工科学校の生徒として入隊され、多用途ヘリなどの整備員、輸送ヘリ・対戦車ヘリの操縦士の経験を経て、今はV-22の操縦士として勤務されているそうです。そしてなんと寺田1尉はV-22の操縦を学ぶため、1年間米海兵隊の操縦士課程へ留学をしたとのことでした。

自衛隊に入ったきっかけ

中学校のときの担任の先生に「自衛隊の高校があるらしい」と言うことを教えてもらったことがきっかけでした。

なぜパイロットに？

陸上自衛隊高等工科学校を卒業後、ヘリの整備員をしていましたが、すぐ横で操縦している操縦士の姿を見て自分も操縦してみたいという想いが強くなったからです。



パイロットって英語が出来ないといけないんですか？

出来たほうがいいです。自分は苦手な方でしたし、高校レベルの英語が出来れば大丈夫です。実際飛んでいても使う英語も決まっているので、必ずしも複雑な英文を使うことはないです。

リーダーへ!



自衛隊の中で少林寺拳法けんぽうをされている方はいらっしゃいますか？

結構わたしいると思います。私の周りにも何人かいます。

自衛隊は厳しいですか？

厳しい部分もあります。一人の行動が原因で1つの作戦つづを潰してしまったり、仲間の命きけんを危険さに晒さらしてしまうこともあるので、規律きりつや時間を守らせる為にも最初の教育期間はどうしても厳しくなります。

V-22パイを操縦そうじゆうしていて

普通のヘリふつう(CH-47など)との違いちがはありますか？

大きな違いちがは速度が速いところパイです。ヘリで約2時間の距離をV-22では約1時間で移動することができます。



幹部そうしと曹士ちがの違いはなんですか？

幹部は訓練などを計画して指揮しきします。曹士がその計画に基づき、行動するといった役割の違いちがや、給与面での違いがあります。

休日じこけんさんや自己研鑽じこけんさんはどのようにしていますか？

休日は3児のパパをしています。子供たちと遊んだりしています。基本的に土日じこけんさんが休みなので予定は立てやすいです。自己研鑽としては、ジョギングをしたり英語の勉強じこけんさんをしたりしています。



- ▶ **感想** 自衛隊は「厳しいことばかり」「自由がなさそう」などのイメージがあったんですが、そのイメージが180度ガラッと変わるようなとても良い経験ができました。また、現役の方の声が聞けてもっと自衛隊に興味を持つことができた貴重な経験になりました！

三宅さん、下調べを活かした質問構成で落ち着いたインタビューありがとうございました。

インタビューを受けた隊員から！

陸上自衛隊 陸上総隊 第1ヘリコプター団 1等陸尉
寺田 明生

私は、中学卒業後、陸上自衛隊高等工科学学校へ入隊、夢であった自衛隊のパイロットの資格を取得しました。その後、英語の勉強にも取り組み、念願のアメリカ留学ちようせんに挑戦しました。一年間にわたる米海兵隊きびの厳しい操縦訓練そうじゆうを乗り越え、現在は、第1ヘリコプター団輸送航空隊パイでV-22のパイロットとして充実した日々じゆうじつを送っています。小中高生の皆さんも是非、自分の夢を目指し、いろんなことにチャレンジして下さい。





働く自衛官の声②

かっこよくて憧れる女性自衛隊員

中高生記者山本さんに、海上自衛隊 海上幕僚監部防衛部 相馬2佐へインタビュー後、記事を書いていただきました。



中高生記者

山本 美結さん(中学1年生) ※取材時

私は小学校4年生の頃から自衛隊に憧れ、自衛隊の番組があれば必ず見るようにしている、ごく普通の中学生です!!

私は誰かにインタビューすることが初めてで、とても緊張しました。

なぜ海上自衛官になろうと思ったのですか。

父親の薦めなどがありました。

自衛官になっていなかったら何になっていると思いますか。

英語・外国語が好きだったので、学校の先生や海外で働く職種に就いていたと思います。

自衛官になるうえで、中学・高校の時に何をしておく役立ちますか。

中学・高校生の間に生徒会や部活動、地域活動などに参加して、勉強や体力のほかコミュニケーションを通じて協調性を養っておくことが大切だと思います。





ご自身はどんな中高生でしたか。

体を動かすことが好きで、活発でした。運動系の部活動に入っていました。また、英語に興味がとてもあったので、中学生の頃から英語の勉強に励みました。

艦長をしていた時に心がけていたことは何ですか。

乗員からも信頼され、常に支えてもらっていることに感謝し、謙虚な気持ちを忘れないことです。

自衛隊生活でつらかった時はどうしていましたか。

同期同士で助け合ったり、プライベートではパン屋や喫茶店巡りをしたりしてリフレッシュをしていました。

入隊する前、不安だったことは何ですか。

一般大学を卒業してからの自衛隊生活だったので、自衛隊生活についての知識も余りないほか、体力もほかの人たちより足りないのではないかと心配でした。



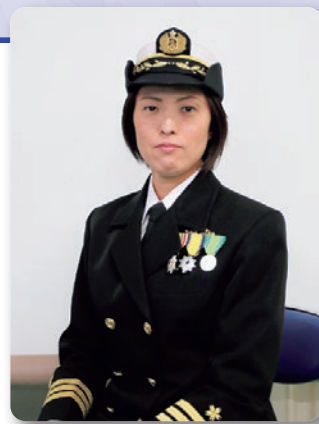
▶ **感想** インタビューを踏まえて、改めて自衛隊はカッコいいなあと思いました!!
相馬2佐のように、頼もしく、堂々とした仕事ができるように、今、勉強と体力づくりをしようと思いました。

山本さん、インタビューでは緊張されていましたが、憧れの気持ちが伝わる記事作成ありがとうございました。

インタビューを受けた隊員から!

海上自衛隊 海上幕僚監部防衛部 2等海佐
相馬 美佳

一般大学を卒業し幹部候補生として海上自衛隊に入隊して25年が経過しました。海上自衛隊における主特技は艦艇用兵幹部であり、教育機関を含む陸上部隊及び艦艇部隊の様々な配置・役職を経験しました。特に艦長勤務は、共に働く仲間の有難さを痛感し、やりがいと達成感を得た人生における貴重な1ページとなりました。山本さんは、将来女性自衛官として一線で活躍したいと話されていましたが、性差なく職域の広がった海上自衛隊で、自分の魅力と可能性を開花していただけたら嬉しいです。





働く自衛官の声③

空を守る！ 戦闘機パイロットへの

中高生記者小林さんに、航空自衛隊 第5航空団 飛行群 第305飛行隊 茂木1尉にインタビュー後、記事を書いていただきました。

中高生記者

こばやし ほうしょう

小林 宝生さん(高校2年生) ※取材時

小学校より始めたサッカーは、今年で12年目となります。「継続は力なり」、良い時もそうでない時にも、平常心で前向きな自分でいられるよう心がけています。誰かの力になりたい、人のためになりたいという想いがあり、自衛官という職種に強く惹かれています。



茂木1等空尉とお話をさせていただき、私の憧れの人物像そのものの方でしたので、驚いたというのが本音です。あらゆることに対し、冷静かつ多角的な視野で任務に取り組まれていると感じましたし、尊敬の念しかありません。

多忙で、ご実家に帰る機会が少ないご自身の経験から、家族への感謝を常に持つ事の大切さも教えていただきました。

受験を控えた悩み多き時期ではありますが、私の目標としています自衛官についてのお話を伺うことができた事、貴重な学びを与えてくださったことに感謝いたします。

ありがとうございました。

防大入校前の不安や入った後に感じたことは何ですか。

地元や親元を初めて離れ、寮生活が始まるのが不安でした。入校すると、上級生が親身になって面倒を見てくれて、同期とも一緒に頑張るので、ひとりの大人としての振る舞いが身につきました。支えあってきた防大の同期は、家族と同じぐらい大切です。



防大に入るまでに何をやっていましたか。

部活動に取り組んで体力づくりをしていたほか、試験に向けた勉強をしていました。皆さんには、家族との時間を大切にしながら、今、目の前でできることに全力で取り組んでほしいと思います。

防大や自衛隊に入る前と後で変わったことはありますか。

防大ではアメフトをやっていたこともありますが、体つきが変わりました。また、高校生活と違って、何事にも目標を定めて取り組む習慣が身につきました。



普段はどんな仕事をしていますか。

毎日、戦闘機に乗って飛行訓練(フライト)をしています。日々の訓練が実りあるものとなるように、フライトの前と後には、しっかりと打ち合わせをして仲間と切磋琢磨しています。



戦闘機パイロットとしてのやりがいは何ですか。

日本の空を守るという、責任ある仕事を任されていることです。日本の空を守るため、いつでも対領空侵犯措置(スクランブル)で戦闘機に乗って飛んでいけるように備えています。これは自分たちにしかできないことだと思っています。

スクランブルなどの任務に、どのような覚悟で臨まれていますか。

自分たちがやらなければほかの誰にもできない、そのような責任ある任務を着実に遂行する、という覚悟で臨んでいます。

現在、苦勞していることは何ですか。

対領空侵犯措置には緊張感があり、高い集中力が求められますので、チームで技量や安全性を向上させるために日々努力しています。しかし、それは、逆にやりがいでもあります。

基地の食事はどうですか。

基地の食事は担当の隊員が仲間のことを思って作ってくれているので、とてもおいしいです。特にステーキや肉料理全般が好きです。

休日はどう過ごされていますか。

趣味の筋トレをしています。また、宮崎県には素晴らしいところがたくさんあるので、ドライブをしています。その他、今は難しいですが、バーベキューをしたりして過ごしています。



小林さん、防大での生活とパイロットの任務のそれぞれを掘り下げる質問ありがとうございました。

インタビューを受けた隊員から！

航空自衛隊 第5航空団 飛行群 第305飛行隊 1等空尉
茂木 龍樹

皆さん、はじめまして！私は、宮崎県の航空自衛隊新田原基地で勤務しています1等空尉 茂木 龍樹です。出身県は愛媛県で、年齢は31歳です。家族構成は、妻と愛車です。

私は、平成26年に防衛大学校を卒業し、航空自衛隊に入隊した以降は、フライトコースを経て、F-15戦闘機を操縦するパイロットになりました。現在は、第5航空団飛行群第305飛行隊に所属し、自身の操縦技量向上のために日々の飛行訓練に取り組みながら、対領空侵犯措置の任務のため、スクランブル待機に就いています。

今回、中高生記者の小林君からの取材を通じて、現在の私自身の仕事を改めて誇りに思うと同時に、将来のことを真剣に考える小林君を入隊前の自分自身に重ね、私自身も今後、一流のパイロットになるために更に努力しなければと、活力(元気)をいただきました。小中高生の皆さん、今は、自分が将来どのような大人になりたいか、どのような仕事がしたいかを楽しく想像し、どのようなことに熱中したいか考える時間を大切にしてください。





リーダーシップ・自衛隊のリーダー

中高生記者谷風さんに、防衛大学校 嶋田学生にインタビュー後、記事を書いていただきました。



中高生記者

たにかぜ ひかる
谷風 輝さん(中学3年生) ※取材時

防大でがんばりたい! 幹部陸上自衛官を目指したい!
しゅみ
趣味はウォーキング、調べものです!

自分が防大生にインタビューした感想は、凄く落ち着いていらっしゃるなというものです。防大の厳しさや様々な経験によるものかな、と思いました。

防大で楽しいときは学生舎生活や様々な行事で、同期や先輩、後輩と協力し合うことらしく、さすが防大と感じました。防大で厳しい点、防大で意外だった点として教わった規則の厳しさ、またそれからくる助け合い・思いやりの精神などから日ごろから協力・切磋琢磨することで鍛えられているのだなと思いました。

防大では通常の期間と訓練期間の2通りの平日があり、通常は6時にラップで起床し通常の大学と同じように授業を受けた後、校友会(運動部に全員入らなければならない)で活動し自習、午後10:30に消灯らしく、なかなか厳しそうだなと思いました。特に校友会の練習が時間的にも大変らしく気が抜けないとお聞きしました。また、日々の生活のリズムが一定なので惰性にならないようにしっかりしなければいけないということもお聞きしました。

訓練期間中は、陸要員なら銃の整備など、空要員ならグライダーの訓練、海要員なら水泳などそれぞれ専門的な訓練を行うらしく防大らしいなと思いました。

防大に入る前は普通の中高生だったということもお聞きし、防大に入って気づかひやリーダーシップなどを身に付けることができたとお聞きしました。これには防大で



を育成する防大



さまざまなチャンスが得られる(学生隊の役職や、海外の士官学校への留学など)点や、正しい考え方を学生舎生活や厳しい規則を通して得られるということも関係しているのかな?と思います。海外留学(米陸軍士官学校)の間に、日本の考え方を客観視したり、より海外への知見を増やしたりと貴重な経験になったとお聞きしました。これに関しても機会をきちんと活かすか活かさないかは自分との戦いで、能動的な部分も変化させることができるのが防大なんだなと思いました。

防大周辺には観音崎公園から海を眺めたり横須賀の市街地や少し足を延ばせば東京へ行けたりとリラックスできる環境が整っており、オンとオフをきちんと切り替えられるとお聞きし、勉強にも学生舎生活ならではのストレスにもきちんと対応できるんだなと思いました。



今回取材させていただいた嶋田学生は将来たとえ大変なことでもしっかりと成し遂げることができる幹部自衛官になりたいとおっしゃっておられ、そのために日頃から気づかぬ行動をきちんとしておくように心がけているとお聞きしました。自衛隊のリーダー・指揮官としての理想の自衛官像、さすがだなと思うと共に、自分も将来の夢に向かって頑張らないと思いました。

嶋田学生さん、ありがとうございました。

谷風さん、普段聞けないような防大生の考え方にまで及ぶ質問をありがとうございました。

インタビューを受けた学生から!

防衛大学校 学生
嶋田 透哉

私は、福井県立藤島高等学校を卒業後防衛大学校に入校し、現在3学年です。専攻は地球海洋学科、要員は陸上要員、校友会はバスケットボール部に所属しています。

防衛大学校は将来の幹部自衛官となるべき者を教育訓練することを目的とした学校であり、日々ほかの学生と共に勉学などに励み、充実した日々を過ごしています。小中高生の皆さんもぜひ、将来の進路の選択肢の一つとして考えてみて下さい。



※学生の所属・学年などは取材時のものです。

ふくそうずかん
自衛隊服装図鑑(イメージ)

デフォルメして表現しています。

陸上自衛隊



海上自衛隊



航空自衛隊

